むつき庵との出会いから「ミニむつき庵丹後」へ

高齢者総合福祉施設　丹後園
地域福祉部長　蔦壁　幸枝さん

むつき庵との出会い

排泄用具の情報館　むつき庵」のことを知ったのは4年ほど前、町のケアマネ会議で在宅介護支援センターの保健師さんから「こんなところがあるのよ…」といただいたパンフレットでした。行ってみたいとは思ったものの、その当時は機会を得ることができませんでした。

幸運にも浜田きよ子先生に今年の春に施設全体でお話をしていただき、「特別養護老人ホーム丹後園」では24時間オムツ使用者が50名のうち6名にまで激減しました。

ミニむつき庵展開へ

今回、新規事業をまかされることになり、いろいろなところを見学させていただきながら準備を進めて行く中で、再度「むつき庵」さんとのご縁をいただきました。情報館に置かれているほとんど全種類が揃っているといってよい排泄のアウター用品やインナー用品、福祉用具に、地域の中にこんな場所があればご本人の状態に最適な用品を見つけていただくことができるだろうな…。

そして、こういった情報館を「ミニむつき庵」として展開されていると教えていただきました。幸いにも担当する新規事業は「地域の方を地域の中で支える」ための、町の中心に小規模多機能、グループホーム、デイサービス、高齢者専用賃貸住宅を併せもつ小さな複合施設です。その一画での「ミニむつき庵」は、場所も思いもぴったりに思えました。

オムツフッターとしての活動

「ミニむつき庵丹後」を開設するにあたり資格必須要件のオムツフィッター研修はテストがあるとのことで少し緊張しましたが、排泄のメカニズムを身体構造から学び、排泄用品の種類、使い方を実際の商品を手に取り試してみることができました。福祉用具等の活用にも思わぬ気づきがあり、視野も広げることができました。

そして「ミニむつき庵丹後」をこの10月に、京丹後市網野町で開設させていただくことになりました。

「うちのお母ちゃんもオシッコが近くなり、パットのような物が欲しいと思っているようだけれど娘には相談しにくいらしくて…本人が自分で相談できる場所があったらいいのに…」

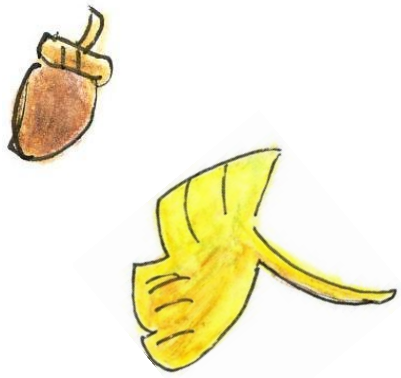
「いろいろと使ってみるけれどもオシッコがもれてしまい、パジャマやシーツまで濡れてしまうことがあって…」

これまでにこんな質問をいただいても、少ない知識と少ない実際の商品で、なかなか適切なお答えができずにいました。

人に聞きにくい排泄に関することが、外出の途中にでも気軽に立ち寄れて、しかも実際の商品を見せていただきながら相談できる。しかも希望すれば購入の取次ぎもしてもらえる。専門職の方にも参考にしていただけ、ご利用者の生活が変わっていく。そんなミニ展示コーナーを作りたいと思っています。オムツフィッターもまだ2名ですが、十分な対応をさせていただくためにあと数名を早急に作りたいと思っています。

「排泄介護が変われば生活が変わる」との取り組みを、オムツフィッターとしてこの「ミニむつき庵丹後」を有効に活用させていただきながら、この地で展開していきたいと思います。

今後ともご支援ご指導よろしくお願いいたします。



オムツフィッターの広場

「オムツフィッター研修」を受講された多くの方々が、オムツフィッターとしてそれぞれの仕事場で、あるいは在宅で、排泄ケアを含めて学んだ知識を有効に活用しています。

今回は研修などを通して「おむつ」について改めて学んだことを仕事場で実践し、その結果排泄の状況がどのように改善されたか、オムツフィッターのお二人からお話をお聞きしました。

「オムツ」を学ぶことが排泄ケアを変える

彦根市立病院
WOC看護認定看護師　北川　智美さん

「おむつ」を知り、排泄ケアを見直す

私が、褥瘡管理をするようになり、一番の悩みは「仙骨部褥瘡」でした。その原因はさまざまでしたが、大きな問題として「おむつによるムレ」がありました。改めて当院の状況を考えてみると、あまりにも簡単に、そして多くの患者様がおむつを使用されていました。そこで当院では、平成 19 年3月むつき庵の浜田きよ子先生をお迎えし、医師・看護師・看護助手を対象とした「おむつ研修」を行いました。当日は、むつき庵からたくさんの種類のおむつが搬入され、実演付きで浜田先生からおむつについて学ぶ機会を得ました。皆真剣で、特に看護師や看護助手など直接おむつにかかわるスタッフが多く集まって先生の具体的で実践に結びつけた、おむつの当て方や尿パッドの選択方法などを興味深く学ぶことができました。

研修が終わり、何週間か経過したある日、病棟看護師が「1枚のパッドでしっかり尿が取れるようになりました」「だんだん上手くなってきました」と嬉しそうに語ってくれました。また、おむつをはずしていこうという考えも定着し、今まで少なかった失禁ケアについてのWOCへの相談件数も増えました。「失禁されていた患者さんのポータブルトイレの尿を捨てに行くとき、ちゃぷちゃぷと音がするようになってきたんです、日々尿量が増えてきて、やりがいがあって嬉しいです」そう言った看護師もいました。

当院は、地域の中核病院として急性期病院であり、重篤な患者様が多い中での失禁ケアを行っています。今までは失禁看護への意識が低かったのですが、研修以後は看護スタッフに浸透したおむつについての考え方が、ケアを実践することによって日々忙しい中ではありますが、看護のやりがいとして感じてくれたようです。

また、当院の仙骨部褥瘡の発生件数も、研修前と研修後で比較してみると減少傾向にあります。おむつのムレとズレが仙骨部褥瘡の発生原因であることは理解できていましたが、おむつを減らせることができれば褥瘡も減少しました。

オムツフィッターとしての活動

当院では、私も含めて3名のオムツフィッター受講生がいます。この秋には老人月間のイベントとして「おむつよろず相談所」を行う計画をしています。在宅でおむつを使用されている患者様やそのケアにかかわる方にも広くおむつについて知っていただき、快適に生活ができるように企画中です。

病院では、在院日数の短縮化を問われ、入院期間中に、やむなく排泄方法の変更があった人が、排泄の回復を待たずに退院となるケースも多くなります。私たち病院で働くものは、おむつをつける「責任」と、はずす「責任」を考え、そのために必要な技術を習得するべきだと考えています。

むつき庵には新しい排泄情報がたくさんありました。通常病院で看護に使用している物品はもう古く、今はもっと便利な排泄用具もあります。排泄は、環境を整えることが大切です。皆さんも一度、排泄情報館「むつき庵」をのぞいてみてはいかがですか？